

【グループ別協議（演習）：「読解のプロセス」を参考とした総合的な学習の時間における学習の流れを参考とした事例分析、単元における学習活動の改善・充実】

提案された学習の流れを参考に、対象事例について、学習の流れの①～④が具体的にどの場面に当てはまるか分析をする。そして、単元の目標やねらいに基づき、学習活動の「どの場面」を「どのように」改善すると流れの①～④を踏まえた学習活動となるのかを協議し、学習活動の見直しイメージと見直し方法について共有化を図る。

（進め方）

- (1) 単元計画を基に、その他の資料を参考にしつつ、総合的な学習の時間における学習の流れの①～④のどの場面に当てはまるか、単元計画に番号を書き込み、分析する。
- (2) 対象事例の単元の目標やねらいを確認し、単元活動計画用紙（模造紙）に記入する。
- (3) 対象事例の単元計画について、その他の資料を参考に「どの場面」を「どのように」改善するのか、付箋紙に記入する。
- (4) (3)で記入した付箋紙を使い、学習場面を意識しながらKJ法を使って分類し整理する。その際、用意した作業用の紙（模造紙）に貼り付け、類型化する。
- (5) (4)で類型化したものを参考にして、単元活動計画用紙に改善された学習活動の流れを記入する。また、その学習活動を行う際の配慮事項を学習活動に沿って記入する。
- (6) 協議結果を発表する。

〔小学校〕A小学校の実践事例

◇ 協議内容 単元計画（抜粋）

次	時	児童の意識の流れ
①	1	2
②		
③	2	6
①		
②	3	28
③	4	
①	5	
	6	
④	7	2
①		

付箋紙（「どのように改善するか」）

※ ①の学習場面のみ抜粋

① 課題が「ホタルの幼虫の発光するところを見つけよう」となっているが、もう少し時間をかけて掘り耕す必要はないか。4年生なので、特に。

① 課題意識を強くもたせるために、VTR等の活用ができると、驚きが自分自身の課題となる。

① 自分で調べたいこと（課題）が班のテーマとかかわっているかを確かにさせる場があるとよい。

① 「幼虫の発光するところを見てみたい」との思いを、個々に継続して持たせるには個々の問いを全体の課題とする場面が、必要ではないか。

① 一人一人の課題を班の課題にする際の手立てとして、見通しをもたせる場面を設定し、科学的な予想や検証の仕方を話し合う。

① 解決すべき問題は何か。その中で、自分たちにできることは何か等、問題を整理するとよい。

◇ 協議結果の発表

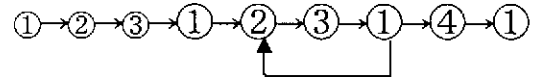
Bグループ
第4学年 「虫のフエーフラ信画」
単元名 「木刈の幼虫の発光を
キックしよう!!」
(活動を深めよう 広げよう)

学習活動の流れ	配慮事項
① 幼虫の飼育活動も軌道に ↓ 幼虫の発光をキックするぞ!!	原虫(フエー)に たらし返らせ 子どもの学習意欲 の高まりを大事に
② どうすれば 幼虫 は発光するの? みんなで調べよう!!	たくさんの経験 (失敗も含む)を通 じて 切実な課題 設定 失敗から学ぶ

③ わかたことを持ち寄り 実験・観察をしよう ↓ どうしてよくわからないの か? どう答えればいいの か? 確かめることも調 べよう!!	① 解決すべき問題 は何か 42 問題を 整理する時間 を設定する。 ② 追究への意欲化
② 新たにわかったこと もう一度実験・観察 をしよう!!	② 地域や保護者の 協力・活用と位置付 ける。 ③ 同級生組をい 学校の情報
③ どうしてよくわからない 何か問題なのか 何が違うか考えよう!!	③ 中間発表の場を 設ける。 ④ 社会や理科との 関連を図る
④ 発表をキックした たくさんの人に見せたい さなはとやてまの	④ 発表会に向けた めと泊場を設ける。 ⑤ 目的・相手とよ 発表の介たてを させる。

(発表内容)

- 単元計画を基に、それぞれの学習活動が「読解のプロセス」を参考とした総合的な学習の時間の学習の流れの①～④のどの場面に当てはまるかを考えると、



という流れになった。

1次から2次にかけての学習活動が小さい①→②→③であり、失敗を含むたくさんの経験(実験や観察など)を通して、切実な課題設定ができるまで子どもたち一人一人の課題意識が高まっていく。

そして、そのような学習活動をうけて、次の①のところで明確な課題意識をもつことができ、課題追究への意欲も高まる。

そして、3次から6次にかけての学習活動では、②→③→①の流れが繰り返され、新たな課題が見出され、追究が深まっていく。

この協議を通して、単元計画は必ずしも①→②→③→④の流れではないことが確認された。また、本単元計画の流れは、小学校段階の総合的な学習の時間の学習として有効な流れではないかと考えた。

- 「読解のプロセス」を参考とした学習の流れのフィルターを通すことで、それぞれの学習活動のねらいや内容が明確になり、学習活動の「どの場面」を「どのように」改善すればよいか明らかにした。そして、そのように学習活動を見直すことで、それぞれの学習活動における留意事項も明確になっていった。